

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ
世界大会高校生平和集会
古典探究第5回
半導体への巨額支援策は何をもたらすか

6、7面
3面
10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsins@dylj.or.jp

核兵器のない世界へ 新たな決意で

▶ 分科会「青年のひろば」に参加した全国各地の青年と海外青年たち（8月5日、広島）



「原水爆禁止2026年世界大会」が、8月3日から9日まで被爆地の広島と長崎で開催されました。『核兵器のない平和で公正な世界』への希望をきりひろくため、新たな決意で行動に立ち上がること（同大会で8月6日に採択された「広島からのよびかけ」）が呼びかけられた広島での集会（8月3日～6日）を中心に、大会の様々と参加した青年の声を紹介します。（文中の青年は一部仮名、塩田悠玄記者）

原水爆禁止2026年世界大会

「重大な岐路」の下で
開催

被爆81年を迎えた今年の原水爆禁止世界大会は、

「世界はいま戦争か平和か、核破局か核兵器廃絶かの重大な岐路にある」（同大会で8月4日に採択された「国際会議宣言」という状況下で開催されました。

米国によるイランへの武力攻撃、ロシアのウクライナ侵略、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区侵襲など核大国による国連憲章も国際法も踏みにじる暴挙が、平和秩序を破壊し、核使用の危険など世界に深刻な危機をもたらしている。

核保有国と北大西洋条約機構（NATO）や日本など同盟国は、核兵器への依存をさらに強め、核軍拡

平和と核廃絶の流れ
力強く

4日の開会総会で、日本原水爆被害者団体協議会代表委員の箕牧智之さんは「世界各国の政治家は、81年前の広島、長崎の悲惨な出来事を学んでいた。核兵器禁止条約を世界に押し付けていると指摘しました。署名国が100カ国に達したことを踏まえて「国連加盟国の過半数が、核兵器の完全な廃絶こそが私たちの完全な生存に関わるリスクを低減し、持続可能な安

核兵器禁止条約制定へ主

導的な役割を果たしてきた



▲ヒロシマデー集会のフィナーレの様。多くの参加者が壇上から歌唱などし、閉会にふさわしい盛り上がりを見せた（8月6日、広島）

核兵器に対する最大の
医療は「予防」

全保障につながるという確信を共有している」と述べました。「オーストリアはすべての国に対し、禁止条約への加盟を呼びかけている。まだ加盟できていない国々には、ぜひオブザーバーとして会議に参加してほしい」とも発言しました。

「共にがんばろう」とDSAメンバー

世界大会には、米ニューヨーク市長のゾーラン・マムタニ氏も所属していることが注目を集める。DSAはそのために運動している。共にがんばろう」と会場に呼びかけAのメンバーも参加。開

「大勢なら強力」と
展望得られた

宮崎から参加した三上梨花さん（24）は、開会総会やヒロシマデー集会で話を聞いたことで「世界にも日本各地にも、同じ気持ちで活動している人たちがいるんだと分かり、すごい心強かった」と話しました。

また、三上さんは世界大会全体を通して現在の情勢に対する展望も得られたといます。「一人では微力だけど大勢だったら強力」とすぐく感じた。今回初めて世界大会に参加した宮崎の人たちとも、多くの市民の声が前進をつくってきたよねと話していて、地元に戻ってからがんばっていけそうだと感じた」と話しました。（2面につづく）